

家畜の遠隔診療（情報通信機器を活用した産業動物診療の効率化）

【課題】 離島等の地理的要因により、獣医師の**頻繁な診療が困難**な地域が存在。さらに、家畜診療所の統合等による往診距離の長距離化などを原因として、**診療効率の低い地域**が発生（獣医師の**勤務時間の約3割が移動時間**）。 ⇒ 家畜において遠隔診療を積極的に活用する必要。

デジタル田園都市国家構想基本方針（令和4年6月7日閣議決定）より抜粋

デジタル技術を活用して畜産業や養殖業の生産基盤強化を図るため、飼養衛生管理等に関する情報をタイムリーに共有・活用するシステムの開発を開始するとともに、獣医療提供体制や水産防疫体制の強化に向けて、**場所を選ばない迅速な診断を可能とする遠隔診療を推進**する。



農家と獣医師



獣医師と獣医師



遠隔診療の事例

事例1：獣医師及び畜産農家間の事例

- 1 獣医師が農家に事前研修：実学（ポータブルエコーや電子聴診器の利用方法）、座学（感染症学や繁殖学）等
- 2 ① 農家が呼吸音や牛の様子動画をスマホで獣医師に送付。
⇒ 肺炎の早期発見・早期治療。他の牛へのまん延も防止。
- 2 ② 農家が卵巣を撮影し、スマホで獣医師に送付。
⇒ 受精卵移植適期のみ往診。受精卵廃棄防止や往診回数減。

事例2：獣医師間（V to V事例（V:獣医師（veterinarian））

- 事前研修済の農家が獣医師に動画を送付。若手獣医師がグループSNSで獣医系大学教官らベテラン獣医師と同時共有・相談
⇒ 農家は早期の応急措置が可能。心理的不安が解消。
⇒ 獣医師は若手獣医師の育成、組織的な知見集約、ベテラン獣医師の業務効率化・ノウハウ伝承。

事例動画：

離島の農場と獣医師を結ぶ
遠隔診療
～西表島・石垣島・沖縄本島～
<https://www.youtube.com/watch?v=TqTmrKI9G9o>



獣医師と牧場の距離を克服
～くろべ牧場まきばの風 遠隔診療～
https://www.youtube.com/watch?v=XtyR1N_HfdU

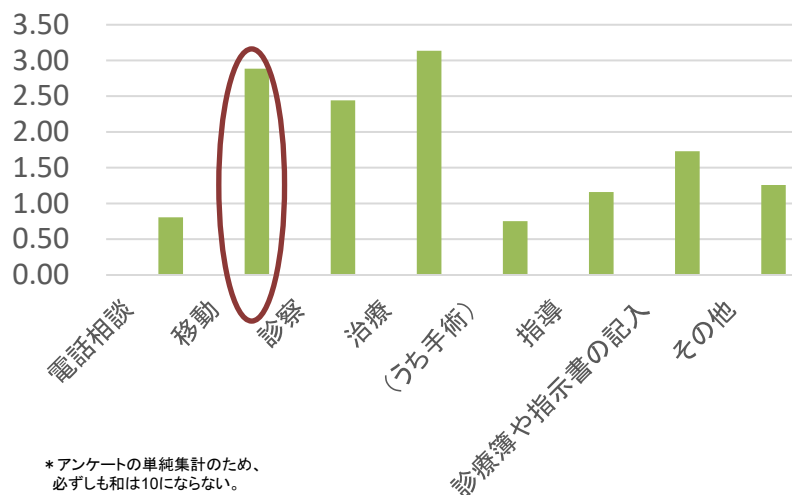


家畜の遠隔診療に関する現況（１）

令和４年５月に家畜の診療施設にアンケートを実施したところ

- 診療獣医師の１日の職務時間のおおよそ３割を移動時間に利用
- 遠隔診療の導入率は約３％

○ １日の職務の時間の割合



○ 診療における遠隔診療の割合

(直近1か月 or 令和4年2月)

診療を行った経営体数	105.60
うち遠隔診療を行った経営体数	3.93
	(3.7%)
診療を行ったのべ診療件数	628.25
うち遠隔診療を行った件数	18.46
	(2.9%)

※ アンケートの概要 実施時期：R4春 回答数：418施設
(勤務獣医師数は約1,560名と全体の1/3)

参考1) 獣医師数等

- 約20年間で、産業動物診療獣医師数と牛の飼養頭数は約1割減。

- 一方、牛の飼養戸数は約6割減。

⇒ 診療効率を上げる必要。

産業動物臨床獣医師数(農水省調毎年12月末日)

	H12	R2	
産業動物臨床獣医師	4,888名	4,402名	▲10%

牛の飼養頭数(畜産統計 各年2月1日)

	H13	R3	
牛	454万頭	397万頭	▲13%
うち肉用牛	281万頭	261万頭	▲7%
うち乳用牛	173万頭	136万頭	▲21%

牛の飼養戸数(畜産統計 各年2月1日)

	H13	R3	
牛	1,423百戸	559百戸	▲61%
うち肉用牛	1,101百戸	421百戸	▲62%
うち乳用牛	322百戸	138百戸	▲57%

参考2) 牛の事故 (参照) 令和4年度家畜共済小委員会 参考資料4

- 牛の事故件数比率は、死傷事故と病傷事故で約1：10

* 死傷事故は人で言う生命保険、病傷事故は人で言う医療保険の対象事故

- 病傷事故の主な原因は感染症等や繁殖障害

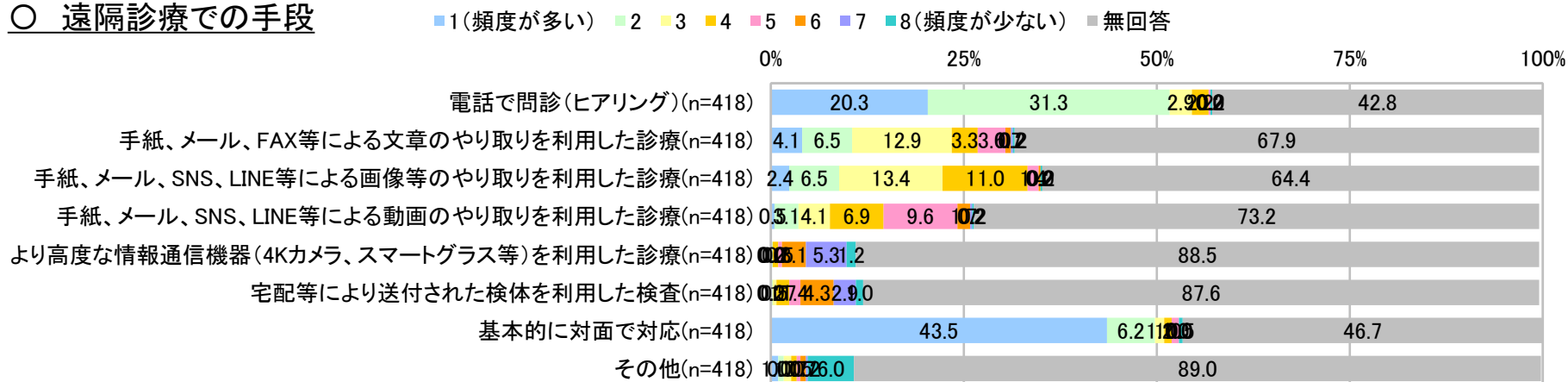
乳用牛	肉用牛
1位 乳房炎	1位 肺炎
2位 肺炎	2位 腸炎
3位 腸炎	3位 気管支炎
4位 黄体遺残	4位 卵巣静止
5位 鈍性発情	5位 鈍性発情

家畜の遠隔診療に関する現況（２）

令和４年５月に家畜の診療施設にアンケートを実施したところ、遠隔診療利用率は３％であるものの

- 電話での問診や画像等のやりとりなどで実施
- 問診等による往診要否判断や獣医師が到着する前の応急措置のために利用

○ 遠隔診療での手段



○ 遠隔診療を行う理由

